

(様式 1 - 5)

中島村 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和 7 年 5 月 8 日時点

※本様式は 1 - 3, 1 - 4 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	海外に向けた「なかじま」の魅力・情報発信事業	事業番号	A-1
事業実施主体		中島村	総交付対象事業費		2,646 千円
既配分額		0 千円	当該年度交付対象事業費		2,646 千円
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業①情報					
①情報発信事業					
					小計 2,646 千円
i) 風評動向調査					千円
ii) 体験等企画実施					1,623 千円
iii) 情報発信コンテンツ作成					千円
iv) ポータルサイト構築					1,023 千円
②外部人材活用					
					小計 千円
i) 企画立案のための外部人材の活用					千円
ii) 地域の語り部の育成					千円
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修					千円
風評の払拭に関する目標					
○ 令和 7 年の当村観光客入込数の前年比 5 % (900 人) 増					
○ 令和 7 年の当村海外観光客数 100 人以上 うちマレーシアからの観光客数 10 人以上					
【参考】当村の観光客入込数					
	H22	H23	R3	R4	R5
全体	70,060	31,113	18,717	18,599	17,388
うち海外観光客(※1)	-	-	30	40	70
うちマレーシア(※2)	-	-	5	5	5
※1: 各年度末の中島村外国人人員調査票の合計人数と同数値として推計。					
※2: 役場や役場職員宅に来訪いただいた方の実績値(サバ大学教授、過去に当村と交流のあった方)					
事業概要					
事業実施主体	中島村				
主な企画内容	マレーシア・サバ州の関係者を当村に招いて、福島県の復興及び除染等の正確な状況や、当村の観光資源、特産、景観、暮らし等の魅力を認識してもらい、中島村を SNS やマスコミ等で積極的に発信いただく。				
主な事業の実施場所	中島村、三春町、双葉町など				
事業の実施期間	令和 7 年 7 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日				
企画内容					
【現状・課題】					

#### <現状>

当村の観光客入込数は、平成 22 年度には 70,060 人であったが、東日本大震災及び原発事故の影響により翌 23 年度には 31,113 人と半数以下にまで落ち込んだ。その後も風評の影響もあり観光客入込数は回復することなく減少が続き、直近の令和 5 年度は 17,388 人となっている。

当村の直近 3 年間の観光客入込数を見ても、令和 3 年：18,717 人、令和 4 年：18,599 人、令和 5 年：17,388 人と逡減傾向にある。新型コロナウイルス感染症拡大の影響から回復し、インバウンドが全国的に盛り上がる中において（当村における海外観光客数は毎年 100 名にも満たない）、令和 5 年の福島県の観光客入込数は前年比で 13.1%の増、県南地方も前年比で 11.8%の増を記録しているにも関わらず、国内外から押し寄せる観光客増の大きなトレンドに当村だけが乗り切れず、取り残されている危機的な状況が顕著である。

特に、海外観光客数については詳細なデータはないが、直近でも年間数十名程度、交流の深いマレーシアからも 5 名程度と、皆無に等しい状況である。

#### <課題>

- ・東日本大震災・原発事故の風評の影響を未だに脱することができず、観光客等、中島村を訪れる人が減少し続けている。
- ・福島県の復興状況や当村の魅力・情報を国内・国外に発信する機会・ツールが圧倒的に不足している。
- ・これまでマレーシアと培ってきた交流・繋がりを、海外観光客増に向けた動きに活かせていない。
- ・国内・国外のユーザーに閲覧してもらえるホームページ、SNS等の効果的な整備・活用ができていない。

#### 【課題に対するこれまでの取組と成果等】

##### <課題に対するこれまでの取組>

- ・村ホームページ、X（旧ツイッター）等での情報発信。
- ・マレーシアとの相互交流（中学校の修学旅行、サバ州の学校から訪問）の中で、県の復興状況や村の魅力を紹介。

##### <これまでの取組における成果>

- ・海外（特にマレーシア・サバ州）における当村の認知度向上。

##### <目標達成状況>

- ・当村の認知度向上は図られているが、海外観光客の増加に結び付けることができていない。

#### 【今年度事業における具体的な取組内容】

##### ◇海外に向けた「なかじま」の魅力・情報発信事業

実施期間：令和 7 年 7 月～令和 8 年 3 月

実施体制：中島村

実施場所

- (1) 中島村
- (2) 三春町（福島県環境創造センター交流棟（愛称：コミュタン福島）・・原発事故による放射線の影響や環境問題を身近な視点から正確に理解していただき、福島県の環境回復と創造への意識を深めるための施設）
- (3) 双葉町（東日本大震災・原子力災害伝承館・・未曾有の複合災害の実態や、復興に向けた歩みを展示） など

概算費用：2,646 千円

実施内容

##### (1) 経緯

- ・当村では、小学 6 年生から中学 3 年生までの 4 年間、語学研修施設（天栄村プリティッシュヒルズ）で全児童・生徒が研修を受けている。また、中学校の修学旅行ではマレーシアを訪れるなど、早くから子どもたちの国際感覚の習得を重視している。
- ・マレーシア・サバ州との交流は平成 27 年から始まり、これまで、当村で希望する住民が訪問、中学生の代表が訪問、平成 28 年度からは中学校の修学旅行先となっており、併せて、マレーシア・サバ州の学校からも中学校を訪れるなど、主に官公庁や大学、学校との交流を深めており、良好な関係を築いている。
- ・本事業では、これまでの交流を目的とした訪問とは一線を画し、マレーシア・サバ州の関係者（官公庁、旅行代理店、マスコミ、大学、学校等）を当村に招いて、三春町の福島県環境創造センター交流棟、双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館等を視察いただきながら、福島県の復興及び除染等の正確な状況や、当村の観光資源、特産、景観、暮らし等の魅力を肌感覚で実感していただき、マレーシアに戻った後も、実体験に基づいた受け手により強く訴求できる情報を発信いただくことで、風評の払拭や当村の認知度向上、誘客数の増加を図ることを目的とする。

(2) 内容

①受入準備

- ア 行程の調整・決定
- イ パネル作成（海外に向けて福島復興及び除染等の状況や当村の魅力を発信するために使用）
  - ・受入時プレゼン、受入後に来村いただく団体等へのプレゼン、マスコミ等への周知等、当事業の目的に沿った使用を想定
- ウ 村ホームページにインバウンド向け特設サイトを追加設置、スマホ版の整備
  - ・日本語版と英語版を作成し、外国人が閲覧しやすいものとする。
  - ・サイトの内容としては、観光スポットやグルメ・お土産情報のほか、四季折々の旬のおすすめ情報、レンタカー利用を想定したモデルコースの紹介、温泉などの施設紹介等を盛り込む。

②受入

- ア 対象者及び人数  
官公庁職員2名、旅行代理店2名、大学・学校関係者3名 計7名を予定
- イ 日程 令和7年11月の5日間を想定
  - (1日目)  
移動 マレーシア・サバ州 → 成田空港 → 東京駅 → 新白河駅（新幹線） → 中島村
  - (2日目)  
福島の現状視察 コミュタン福島（三春町） → 東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）
  - (3日目)  
村内視察 汗かき地蔵 → 川田神社の狛犬 → 童里夢公園 → 四穂田古墳 など
  - (4日目)  
村内体験 奥州汗かき地蔵太鼓、古墳出土品装着、農業 など  
※3日目、4日目では村内の小中学生による観光資源紹介や共同体験等を想定
  - (5日目)  
移動 中島村 → 新白河駅（新幹線） → 東京駅 → 成田空港 → マレーシア・サバ州
- ウ 情報発信  
受入期間中は、村や参加者から随時SNSで受入の状況を発信する。

③受入後

- ア 村及びマレーシア関係者がSNS等により周知
  - ・村はX、LINE、ホームページ等により周知
  - ・マレーシアの官公庁、学校関係者が自前のSNSツールにより周知（受入の条件として事前提示）
  - ・新たに整備するインバウンド向けサイト（PC版及びスマホ版）に誘導
- イ 村がマスコミ等により周知
  - ・地元新聞紙（福島民報、福島民友）やテレビ局に対し村とサバ州の連携状況を特集的に売り込み
  - ※地元新聞紙は、これまで当村とマレーシアとの交流を現地同行取材し記事掲載した経緯がある
- ウ マレーシア関係者が現地において福島県及び中島村をPR
  - ・官公庁による福島県及び中島村関連のPR
    - 復興及び除染状況や、村とサバ州の連携などをイベント等で紹介（受入の条件として事前提示）
  - ・現地旅行代理店による福島県及び中島村の紹介
    - 日本、福島県を旅行先として検討している方に当村を観光スポット（周遊の一候補地）として紹介いただく。
  - ・大学、学校による福島県及び中島村の活用
    - 教員等による研修、学生による学習旅行など  
サバ大学やイナナムセカンダリースクールの教員による研修や学生の学習旅行先として検討いただき、検討結果を御連絡いただく。
    - イナナムセカンダリースクール教員には日本で語学を学んだ方が、また、サバ大学には福島高等専門学校と共同研究している方がおり、更なる関係強化と、原発事故からの復興状況や食の安全性、村の魅力を発信できる人に来村していただく。
  - ・現地マスコミでの記事採用
    - 村とサバ州の連携状況、観光スポット等の紹介
    - 現地マスコミについては、在コタキナバル領事事務所、現地官公庁、サバ大学等から紹介いただく予定

など

(3) 事業スケジュール

- |                     |                                                         |
|---------------------|---------------------------------------------------------|
| ①令和7年7月～9月          | 受入準備（工程の調整・決定、パネル作成、インバウンド向けサイト設置）<br>マレーシア関係者との事前打ち合わせ |
| ②令和7年9月～11月         | 受入の事前周知、参加者最終決定                                         |
| ③令和7年11月            | 受入実施                                                    |
| ④令和7年11月～<br>令和8年3月 | 受入後の周知活動                                                |

【今年度事業における目標】

<アウトプット>

- ・インバウンド向けサイトの追加・整備
- ・マレーシア関係者受入 1回、7名程度/年
- ・マスコミ・SNS等による情報発信 18回/年（月2回程度）

<アウトカム>

- ・令和7年の当村観光客入込数：前年度比5%増、うちインバウンド：前年比43%増
- ・インバウンド向けサイトの閲覧数：1200以上（令和7年10月～令和8年3月）

【今年度、事業の実施により得られる効果】

当村がこれまで培ってきたマレーシア国サバ州との関係を活かし、マレーシア関係者を当村に招き、福島県の復興及び除染の状況や当村の魅力・情報発信に当村で直接的に取り組むことで、国内外における福島県に対する風評が払拭され、加えて当村の魅力・認知度の向上が見込まれる。

また、マレーシア関係者による訪日後のPR活動等により、東日本大震災・原発事故以降、大幅に落ち込み回復の糸口すら見えていない当村の観光客数が、マレーシアからの誘客増をきっかけとして増加傾向に転じ、派生的に交流人口もマレーシアを起点として拡大することが見込まれる。